

子ども見守り防犯も

熊本市の女性NPO

地域住民による登下校時の子どもたちの見守り活動が広がりを見せる中、熊本市内の女性グループが見守り活動を軸に、地域全体の防犯活動に力を入れている。和服のリフォームを通して活動資金を確保。多くの住民の参加を実現させる一方、学校との連携を深め、子ども同士のいじめ、保護者間の紛争を抑えるための話し合いの場を設けるなどしている。

その名は「オバパト隊」

和服リフォームが資金源

昼間はもちろん、夜間も活動する

行く。犯罪を見つけてやめてきた。めさせるのではなく、犯罪の発生を抑え込もうと、この考え方で活動を続け加わっている。組織を維

持、拡大させてきた背景には幾つかの工夫があった。

不審者、空き巣が減る

後、同校の保護者など、

「オバパト隊」と呼ぶ子どもをかぶって同小学校のこの女性グループは平成学区などを歩く。公園、17年に発足。子どもが被コンビニエンスストア、書者になる事件、加害者学習塾の周囲などで若者になる事件が相次いでい

たことから、婦人会を母夜間のパトロールとな体、数人の女性を中心るため、懐中電灯と防犯となつて始めた。22年に「オバパト隊」は、NPO法人の認証を得ている。

「オバパト隊」とは、「オバタリアン・パトロール隊」を略したもの。中高年の女性がたくましく生きる姿を描いた漫画のタイトルから流行となつた言葉を借りて名付けた。

基本となる活動は、下校時の見守り活動だ。熊本市立尾ノ上小学校の児童が下校する午後3時ごろ、もう少し年齢が高い若者層が屋外で過ごす見守り活動も加わる。している午後8時ごろ、緑青色回転灯を装着した白色に統一したベストと帽

一人暮らし家庭も訪問

一人暮らし家庭も訪問



平成23年7月25日 日本教育新聞

男性も加わって活動に幅

と名付けた漬物を漬けて成果を得ることができ売ることもある。それらた。

の代金でベスト、帽子な

警察官を講師に、毎月、「学校議会」ができた。

パトロールの方法や、犯罪の現状などに関する勉強会も開いている。自治

の会合にも顔を出す。

自ら学びつつ、自らの社

会を守る。住民の絆が少

しずつ深まってきた。

最初は女性ばかりの活

動だったが、今では、男

性も加わっている。「オ

バパト隊」と名付けた

組織を設け、男性陣はそ

の一角として活動する。

オバパト隊は、オバパト

大学の一部という位置付

事務局長を務める「ここ

ろ

ろ

「交通安全学部」などを設け、パトロール以外の活動にも幅を広げている。

オバパト隊は19年に安

全・安心なまちづくり関

係功労者として総理大臣

表彰を受けた他、本年は

もある。全国に活動を広